

文学探訪

～文学者 ゆかりの地をめぐる～

文学、文化の発展に大きく寄与した文学者たち。彼らが過ごした北九州市の街に、多くの足跡が現在も残っています。市内各所にある文学者たちを紹介した文学館や記念館、文学碑などを巡ること、北九州市の文学の軌跡を知ることができます。



明治の文豪

森鷗外

モリ オウガイ

1862～1922年

小倉の文化発展に貢献した鷗外旧居を訪ね、当時を偲ぶ

小説「舞姫」「高瀬舟」で有名な明治・大正期の文豪。旧陸軍第12師団軍医部長として、小倉に着任した2年10ヶ月のうち、最初に住んだ家が森鷗外旧居です。昭和49年に市文化財に指定、昭和57年に当時の姿に復元されました。この家を舞台にした作品に「鶏」があり、小倉での生活を綴った「小倉日記」も有名です。

プロフィール

石見国津和野(現:島根県津和野町)出身。東京大学医学部を卒業後、ドイツに留学。軍医、小説家、翻訳家など多くの肩書きをもった人物。



森鷗外旧居

詳しくはP14を見てね。

代表的な作品

「舞姫」「うたかたの記」「文づかひ」「高瀬舟」「山椒大夫」「雁」「阿部一族」ほか



昭和の激動期を駆け抜けた女性作家

林芙美子

ハヤシ フミコ

1903～1951年

たくましく生きる庶民を描いた直筆の原稿や書簡で作家活動を振り返る

昭和を代表する女性作家。門司で生まれ(下関説あり)、若松で幼少期を過ごしました。初の自伝的小説「放浪記」で一躍人気作家となりました。その後、「晩菊」「浮雲」などを発表。「林芙美子記念室(旧門司三井倶楽部2階)」には、芙美子直筆資料(複製)や着用の着物などが展示され、彼女の実像に迫ることができます。

プロフィール

福岡県門司市(現:北九州市門司区)出身。「放浪記」がベストセラーとなり、印税で中国、パリなどへの渡航も経験。終生、庶民に寄り添い、庶民を描き続けた作家だった。



林芙美子記念室

MAP P05-06 関門エリアMAP

093-321-6191 9:00～17:00
ゆなし

代表的な作品

「放浪記」「晩菊」「浮雲」「めし」「うず潮」「牡蠣」「清貧の書」「稲妻」ほか



兵隊三部作がベストセラー、故郷と河童を愛した

火野葦平

ヒノ アシヘイ

1906～1960年

昭和の激動を綴った作品の数々。今も若松に遺る葦平の熱き想いをめぐる

昭和13年、「糞尿譚」が第6回芥川賞を受賞。軍報道部時代に書いた「麦と兵隊」「土と兵隊」「花と兵隊」の兵隊三部作で注目を集め、北九州市が舞台の「花と龍」など多くの作品を発表。葦平を生んだ若松には、火野葦平資料館や旧居河伯洞など、彼の足跡を巡ることができる施設があります。

プロフィール

遠賀郡若松町(現:北九州市若松区)出身。作家活動の拠点を若松の河伯洞と東京の鈍魚庵に置き、精力的に活動。昭和35年、河伯洞2階の書斎で自ら命を絶つ。



火野葦平資料館

詳しくはP19を見てね。

代表的な作品

「糞尿譚」「麦と兵隊」「土と兵隊」「花と兵隊」「花と龍」「革命前後」ほか



社会派推理小説ブームを巻き起こした作家

松本清張

マツモト セイチョウ

1909～1992年

多彩な文学表現で読者を魅了し、北九州市を舞台にした作品も多数発表

社会派推理小説の分野を確立し、歴史小説や現代史などの作品を世に送り出しました。千編に及ぶ作品を手がけ、代表作は芥川賞受賞作の「或る『小倉日記』伝」「点と線」「眼の壁」などです。清張の創作活動を紹介する松本清張記念館では、書斎などの再現展示や、長さ22mの年表などで清張文学の全貌を伝えています。

プロフィール

福岡県企救郡板橋村(現:北九州市小倉北区)出身。朝日新聞西部本社勤務時に作家活動を開始。多くの作品が映画・ドラマ化されるなど昭和を代表する作家。



松本清張記念館

詳しくはP13を見てね。

代表的な作品

「或る『小倉日記』伝」「点と線」「眼の壁」「昭和史発掘」「日本の黒い霧」ほか



女性俳人の草分け

杉田久女

スギタ ヒサジョ

1890～1946年

プロフィール

美術教師の杉田宇内と結婚。福岡県小倉市(現:北九州市小倉北区)に移る。「ホトギス」で才能を発揮。昭和7年、俳誌「花衣」を創刊した。

代表的な作品

「花衣ぬぐやまつはる紐いろいろ」「飢して山ほととぎすほしいま」「足袋つぐやノラともならず教師妻」

檜山荘で出会い、俳人として後の活躍の礎を築いた

北九州市ゆかりの俳人・橋本多佳子は檜山荘で、杉田久女から俳句の手ほどきを受けました。大正、昭和初期に“小倉の文化サロン”として多くの文化人に親しまれた檜山荘。現在は公園として整備され、自筆の筆跡で書かれた久女と多佳子の句碑があります。



檜山荘跡

MAP P05-06 B-2



杉田久女・橋本多佳子記念室

詳しくはP13を見てね。



詩人・美術評論家・仏文学者であり翻訳家

宗左近

(本名:古賀照一)

ソウ サコン

1919～2006年

プロフィール

戸畑区で生まれ小倉中学を経て上京。戦時の空襲で母を失い、この体験を書いた長編詩集「炎(も)える母」で藤村記念賞受賞。その後、「網文」シリーズなど詩集40冊以上発表。

※戸畑図書館には、「宗左近記念室」が併設されています。

代表的な作品

詩集:「炎(も)える母」「響灘」
翻訳:「ロラン・バルト『表徴の帝国』、モーパッサン『女の一生』、アガサ・クリスティ『オリエンタル急殺人事件』」ほか



戦後俳壇の女性スター

橋本多佳子

ハシモト タカコ

1899～1963年

プロフィール

大正から昭和にかけて福岡県小倉市(現:北九州市小倉北区)の檜山荘に住んだ。山口誓子に師事し、昭和25年「七曜」主宰となる。

代表的な作品

「いなびかり北よすれば北を見る」「乳母車夏の怒濤によこもきに」「雪はげし書き遺すこと何ぞ多き」

北九州市立文学館でゆかりの文学者に触れよう。
P13に関連情報あり

文学者の偉業を通じて、北九州の文化の軌跡を学ぶ
北九州市にゆかりのある文学者の作品や資料を展示する施設。常設展示室では、明治以降における北九州文芸のあゆみなどを、貴重な文芸資料の展示や、パネルや映像を通して紹介します。また、森鷗外や火野葦平、林芙美子など小説や詩、俳句など各分野で活躍した文学者の直筆原稿や書簡や著書も展示しています。

北九州文芸のあゆみを表した24mの年表
平成29年3月に北九州文学サロンが開設